

【学位論文審査の要旨】

本論文は、不足している家族介護者に対する社会的支援体制の構築を目指した評価である、家族介護者の作業適応質問紙（以下、OAQC）の開発を目的とした研究である。その研究デザインは、健康関連尺度の選択に関する合意に基づく指針である COSMIN (COnsensus-based Standards for the selection of health Measurement INstruments) に準拠して適切に研究デザインが組まれている。副論文 1 は家族介護者が従事する「介護」という作業の構成概念を明らかにするための質的研究であり、その構成概念【家族介護者の思い】と【介護する生活】、【介護と環境】が相互に関係し合うことから、介護負担感と上手く付き合いながら家族介護者の作業が健康に遂行できているかという作業療法的視点での介入の必要性が認識された。副論文 2 は OAQC 開発の第一段階として、Delphi 法を用いて先行研究で明らかになった構成概念をもとに作成した尺度項目の内容的妥当性の検証を行った。主論文では 216 名の家族介護者の協力を得て、先行研究で得られた 41 項目の探索的因子分析と項目反応理論による分析を行い、5 因子 16 項目の尺度として十分な構成概念妥当性および信頼性が示された。

開発した質問紙は、高い信頼性と項目応答を持つことが示され、適切に家族介護者の作業適応を測定することができ、家族介護者の自分らしい生活の支援に役立つ可能性があることから、作業療法士が社会的支援体制の一部として家族介護者を支援するときの有用なツールとなることが期待され、本論文は、作業療法に貢献しうる研究であると高く評価することができた。

最終試験においては、本研究の分析方法、質問紙の構成概念と作業適応の概念との関連、質問紙の使用法や実用性といったことについて質問があったが、本研究で用いた分析方法を様々な方法の中から選択した根拠、家族介護者が従事する「介護」という作業の構成概念から質問紙の概念、作業適応の概念へと至った経緯、訪問作業療法先で出会った家族の不健康状態のスクリーニング等、現時点で考え得る質問紙の使用法に言及するなど、質問者に対して適切にかつ誠実に応答し、今後の OAQC の作業療法実践における活用や研究展開についても述べるなど、研究に対する意欲も認められた。なお、主論文は、インパクトファクターのある雑誌に掲載された英語論文であり、研究者としての資質は十分と考えられる。

以上のことから、本論文を博士論文に値し、著者が博士(作業療法学)の学位に相当するものと認める。